

独立行政法人情報通信研究機構

本社住所	〒184-8795 東京都小金井市貫井北町 4-2-1	■アピールポイント 情報通信研究機構(NICT)は、我が国の経済の成長と発展、豊かで安心・安全な社会の実現の原動力である情報通信技術(ICT)分野の研究開発と事業振興業務を進めております。 多言語翻訳研究室では、産業や文化の発展に資する多言語翻訳技術の研究開発を進めています。 本展示では、翻訳支援環境についてご紹介いたします。
URL	http://www.nict.go.jp/index.html	
展示名	翻訳支援環境の研究開発	
お問合せ先	担当部署 ユニバーサルコミュニケーション研究所 多言語翻訳研究室 TEL 0774-98-6300 FAX 0774-98-6300 E-mail ltg-info@khn.nict.go.jp	

【産業日本語との関連】

英語をわかりやすい日本語に翻訳するときに、産業日本語が関係する。

【詳細】

NICT多言語翻訳研究室では、「みんなの翻訳」という翻訳支援環境を、東京大学図書館情報学研究室と共同で運営しています。「みんなの翻訳」はボランティア翻訳者の支援を目的としています。

ボランティアの翻訳者は、様々な文書を翻訳しています。ボランティアの翻訳者は、翻訳により、世の中に貢献していると言えます。たとえば、マニュアルの日本語訳は、日本人のユーザーにとっては、大変有難いものですし、ブログの翻訳は、他のメディアが注目しない場所や人々について光を当てると言えます。したがって、ボランティアの翻訳者を支援することは、世の中に貢献することと言えます。

また、日本にいるボランティアの翻訳者は、現在、数千人程度ですが、外国語特に英語を翻訳できる潜在的なボランティア翻訳者の数は、数十万人程度ではないかと思われます。そのため、翻訳をしたい人が、簡単に翻訳ができる環境を提供すれば、現状よりも、もっと多くの人が翻訳をするようになり、より多くの外国の情報を取り込めるとともに、日本の情報を発信することもできるようになると思います。

このような動機から、NICT多言語翻訳研究室では、東京大学図書館情報学研究室と共同で、「みんなの翻訳」を開設しました。

みんなの翻訳の特徴は、(1)東京大学で開発された高機能な翻訳支援エディタ QRedit を誰もが利用できることと、(2)みんなの翻訳で公開されている翻訳には、「一定の条件の下で、二次的著

作物を作成し、それを公開しても良い」というライセンスが付与されているため、適切な使用であれば、翻訳を利用できるということと、(3)三省堂の協力により「グランドコンサイス英和辞典(36万項目収録)」が翻訳支援に利用できることです。

翻訳支援エディタ QRedit の基本設計理念は、以下の4点に集約されます。(1)新たな情報・機能を提供するのではなく、翻訳者が現に行っている作業の手間を省く、(2)システムが決めるのではなく翻訳者が決めるのに必要な情報を提供する、(3)翻訳者の発想を豊かにする情報を表示する、(4)できるだけシンプルにする。これらの方針は、翻訳者へのインタビューおよび現状の翻訳支援技術の水準に基づいて決めました。

翻訳結果を共有するためには、原文と翻訳文の使用許諾について考慮する必要があります。たとえば、当然ですが、原文の著者が翻訳文の公開を許可していない場合には、翻訳文は公開できないので、翻訳結果を共有することはできません。

そのため、みんなの翻訳の利用者には、原文と翻訳文の使用許諾について確認を求めています。また、みんなの翻訳の利用者には、各自が翻訳した文は、二次的利用ができるように許可することを求めています。そのために、システムは、みんなの翻訳の利用者が翻訳文を保存するときに、使用許諾などを確認しています。このようにして、みんなの翻訳では、原著者や翻訳者の著作権を尊重しつつ、翻訳を共有できる仕組みを準備しています。

また、NICTは、みんなの翻訳で得た知見を元にして、翻訳支援エディタだけでなく、機械翻訳や対訳抽出や対訳文アライメントなどを統合した翻訳支援環境も開発しています。